

## 年間第 28 主日の説教

金 大烈 神父 2008 年 10 月 12 日 (日)

### 《私達が招かれた信仰の宴》

お早うございます。

聖書を良く読まれた方、また、ある程度読まれた方は、今日の福音(マタイ 22・1-14)の内容についてすぐ気が付かれると思います。婚宴の宴に招かれた人々は、イエス様と同じイスラエルの民族でしたが、宴に誰も来ないので、王は『大通りに出て、善人も悪人も全部連れて来なさい』と命じられました。そして連れて来られた人々はイスラエル人にとっては“異邦人”を意味する事を私達は良く知っています。

これは2千年前の話ですが、今の時代に、この福音をどの様に理解すれば良いかを考えてみますと、王子の“婚宴の宴”は、私達にとって“信仰の宴”を意味するのではないのでしょうか。“信仰の宴”には色々な人々が招かれています。皆様もこの“信仰の宴”に招かれて、この様な信仰の生活をなさっていると私は思っています。そして今日、3人の方が入門式に与りましたが、この方々も色々な道程があったでしょう、人生の深みを経験されながら、その中で教会の事を思い出して、教会を訪れ、勉強を始められたのだと思います。

私達は信仰の宴に招かれています。“宴”とは何でしょうか？これがなかったら、宴とは呼べないと思われるのは何でしょうか。それは“喜び”ではないでしょうか。“喜び”があったから“宴”になったのです。“信仰の宴”に招かれて行っても“十字架”ばかりで重い気持ちだけだったら、今日は読みませんでした。が、“礼服”を着ていないので追い出された人と同じになってしまいます。信仰というものは、表面的には色々な掟があります。「これをしなさい」「これをしななくてはいけません」「これをしなさい」と言われている事がありますが、それを全部集めて書き示しても、その中に必ず“変わらない喜び”がなかったら、自分の信仰の道をもう一度振り返ってみななければならないと思います。

皆様は今、喜ばれているのでしょうか。私達はこの信仰の道を歩んで、信仰の宴に招かれて、本当に良かった、幸いだと思っているのでしょうか。辛い事があっても、この信仰があるから乗り越えられる、信仰によって乗り越えられたと、いつもいつも考えなければならないと思います。

信仰の素晴らしさは、人には説明出来ない程の喜びです。その喜びの中には、感謝の心があります。人を愛の心でみる心があります。必要な人には自分をなげうって助けてあげようとする心もあります。困っている人を見たら、もどかしい思いでどうすれば良いか考える心、全く関係ない人の為に涙する事の出来る心があります。もしこのような真理が私達の中に現れなかったら、やはり私達は名前だけ信仰の宴に招かれている、足だけが向いている事だと思えます。

私達は信仰の宴に招かれています。私達はその招きに相応しい、正しい“礼服”を着なければなりません。その“礼服”とは何でしょうか。まず、“求める心”です。何が行われているのか、疑う心も必要です。そしてその宴、その喜びに自分も積極的に与らなければならないとう、“開けられた心”を持つ事ではないかと思えます。そしてその宴の結果は、感謝の喜びで現れると思えます。皆様、私達は皆同じ道を歩んでいます。その道が、自分の人生の中で、一番大きな、大事な選択であったと、確信することが出来るように、この道を力強く歩んで行きましょう。

次に皆様に申し上げたいことは、感謝です。有り難うございました。先週、韓国登村3洞教会から兄弟姉妹が5泊6日で日本を訪れました。最後の日、10月5日にはこの教会で、国際ミサやクララ祭で本当の意味での“宴”が出来た事を感謝します。そこで私は、この太田教会の皆様が、心を込めてその人々に心を配る姿を見て、“可能性”ではなく、“現実”としてイエス様の働きが、今行われている事を強く実感しました。韓国からの皆様も本当に良い体験が出来、色々な事を感じて帰られたと思

います。有り難うございました。皆様も先週の国際ミサでは色々な事を感じられたと思います。ただ一つの信仰によって、様々な違いがあっても、それを乗り越えて神様を称え、愛の心で交わりながら賛美出来た事は本当に素晴らしい事だと思います。

その中で、2日前金曜日のミサの説教で話した事ですが、皆様をお願いしたことがあります。やはり、恵が溢れる所には、必ず悪魔の働きもあります。この教会が良い方向に動いていると感じる時、それを見過ごしてしまう悪魔ではありません。良い事をしようとすれば、それを妨げるその勢力があります。現実となっていていつも現れるのです。もしかすると、とんでもないことを言う人が現れるかも知れません。私達が満たされて行く姿を、妬みの目で見ると人の群れが出てくるかも知れません。それは、聖職者の世界の中でも、信徒の世界の中でも、またこの社会の中でも全く同じです。ですから私は皆様に一生懸命に祈って頂きたいのです。油断せず、適度な緊張感を持ちながらお祈りによって互いに支え合いながらイエス様について行きましょう。私達にはこの様に“頑張ろう”という雰囲気、頑張ろうとする気持ちがあります。祈りによって、一人一人の力を合わせ、少しずつ神様のみ国の築きに与かろうとするその心に感謝いたします。

皆様、色々な面で、心を一つにして、それを現して下さった事に感謝致します。

ありがとうございました。